



牟中だより 校訓「愛知・自治・敢為」 89名のみなさんと保護者の皆様へ

12月になりいよいよ冬本番となるでしょうか？今年はずいぶん暖冬であると言われていいますが、二学期最後まで89人が元気に登校してくれることを願っています。生徒のみなさんは一日の生活時間の中で、学校で生活する時間が最も長いはず。就寝時間よりも長い時間を友達や先生と過ごしています。だから、学校生活が「元気で楽しく」なければなりません。そのためには一人一人の頑張りが大切です。11月に、郡人研が本校で行われ、たくさんの先生方に日々の学習の成果を見ていただきお褒めの言葉をいただきました。みなさんの今までの積み重ねてきた学習の成果だと思います。自分のそして周囲の命を大切に、それぞれの日々の生活が安心して充実した生活が送れるように。そして災害時にいかに地域とつながり行動できるかを学習してきています。その一つが3年生からの提案「災害が起こる前につながっておこう」です。この12月11日町内避難訓練に向け、小6生と中3生が協力していろいろ考えてくれています。1年生・2年生もそして保護者の方々にも参加して欲しいと思います。ご協力をお願いします。

今月16日から全学年個人懇談を行います。学習面や生活面で気になること・不安なことを相談していただければと思います。担任からは子どもたちの学校での様子をお伝えしたいと思います。二学期のまとめをし、新年を迎えるにあたりよろしくをお願いします。

12月5日の朝会の話

「ハチドリひとしずくの一滴」

今日は南アメリカのエクアドルという国につたわる「ハチドリひとしずくの一滴」という古いお話をします。みなさんハチドリを知っていますか。ハチドリは体長が10cm前後の非常に小さい鳥です。花の蜜を吸って生きています。花の蜜を吸うときに花に直接止まらずにホバーリングしながらくちばしを花に差し込んで蜜を吸います。そのときの羽の音がブーンブーンと蜂の羽の音に似ているからハチドリという名前になったそうです。それでは「ハチドリひとしずくの一滴」というお話を紹介します。



森が燃えていました

森の生き物たちはわれさきにと逃げていきました

でもクリキンディという名のハチドリだけは行ったり来たり

口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます

動物たちはそれを見て「そんなことをしていったい何になるんだ」と笑います

クリキンディはこう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」

お話はここで終わります。ハチドリひとしずくのクリキンディのように自分にできることを自分がするという当たり前のことですが、なかなかできないことです。みなさんはこんな経験ありませんか。自分が正しいと思ったことをしようと思うけど周りの人の目を気にしてしまうこと。何かができないとき、他の人を避難したり、怒ったりすること。また、自分では無理だからと、あきらめや無力感に心が支配されて動けないこと。でもこの物語は、どんなときも自分には、何かできることがあるんだということを教えてくれているように思います。自分が良いと思って自主的に何かをやり始めることその気持ち・勇気はすばらしいです。

さて、物語の中のあの森はその後どうなったのでしょうか。燃え尽きてなくなってしまったのでしょうか。それとも他の動物が次々と火を消し始めたのでしょうか。さあこの物語の続きはみなさん一人一人がつくっていきましょう。そしてみなさんの想いと、先生たちが一緒になって、牟岐中学校のすばらしい物語をつくっていきたいと思います。

ふれ合い体験学習
お世話になりました

11月27日
8コースに分かれて



地域の方々のご協力を得て、保護者のみなさんと楽しいひとときを過ごしました。
講師の皆様ありがとうございました。

